

泉のほとり

●聖霊降臨主日

今月の詩編「第二四四篇」

いかに幸いなことか、このような民は、
いかに幸いなことか、
主を神といただく民は。



主に造られた教会

復活された主イエスは、四〇日目に天にお
歸りになりました。それで今は主を目で見るこ
とができません。でも五〇日目に聖霊が来てく
ださったので、今は聖霊に助けていただいで、
聖書の言葉を通して、主の御心を知ることがで
きます。

聖霊が来てくださったって、この地上に教会が誕
生しました。でもある人が、聖霊が来てくださ
って突然教会が生まれたのではない、と言ってい
ます。その前から、主イエスが教会を作って
くださったのだ、と。

今日の箇所で主イエスが神さまに祈っておら
れます。とりなしの祈りです。でもその前には、
「互いに愛し合いなさい」という戒めを語られ
ましたし、その前には弟子たちの足を洗って、
お互いに足を洗い合いなさいと言われました。
教会とはそういうところだと、教えてくださ
ったのです。神さまが人を造る時に、土のちり
で人の形を造りになったように、主は弟子の集
まりとしての教会の形を作られたのです。

祈りの中で主は弟子たちを「あなたのもの」
と言われました。弟子たちは神さまのものです。
わたしたちは神さまのものです。この品川の町
にも、神さまのものでありながら、まだそのこ
とを知らない人たちがたくさんいるのです。皆
さんにはぜひそのことを知っていただきたい。
あなたがたは神さまのものです。それを知って、
感謝して、主イエスの弟子になつたら、それが

現実になります。神さまのものである人は、主イエ
スのものになるからです。

もうひとつ、主は弟子たちによって栄光をお受け
になった、と言われます。これは不思議な言葉です。
聖書を読むと、弟子たちはいつもよくわかってなく
て、失敗したり、御心に従わないで、主を悲しませ
ているからです。でもその弟子たちによって主は栄
光を受けたと言われます。主がそう言われるのです
から、わたしたちの考えとは違っていて、それが
正しいのです。でもそれはどういうことでしょうか。

教会員のお葬式をした後で、家族から「あの人が
そういう人だとは知りませんでした」と言われるこ
とがよくあります。生きていた時には見えなかった
ものが、死ぬと見えてくるのです。身近な人の真実
の姿に、わたしたちが気づいていないことが多いの
です。自分の真実の姿さえも、わかっていないこと
もあるのです。でも主は真実をご存じです。主は弟
子たちの真実の姿を、ご存じだったので、

最後に主は、「あなたとわたしとがひとつであるよ
うに、彼らもひとつになるように守ってください」と
祈られました。いろいろな違いを持った人たちが
集まって、ひとつのキリストの体を作ります。それ
が教会です。教会は神さまのものである神の民の集
まりです。この集まりによって主は栄光をお受けに
なります。そしてこの集まりが、聖霊によってひと
つとされて、キリストの体になるのです。

仕事のための祈り

父であり、救い主であられる、わたしの神よ、

自分の必要を満たすために働くようにと、あなたはわれらにお命じになりました。それゆえ、われらの労働が、われらの肉体だけではなく魂をも養うものとなるように、われらの仕事を祝福してください。

われらがつねに自覚できるようにしてください。み光に導かれ、み手によって強められることがなければ、われらの努力には価値がないのです。

われらがそれぞれのつとめに誠実であるようにしてください。あなたは、われらひとりひとりに必要な賜物を与えてくださっておられるのですから、他の職業をうらやんだり嫉妬したりすることがありませんように。

われらに、貧しい人びとが必要としている物を支える、善き心を与えてください。われらと与える物を受け取る人たちよりも、自分が高みに立ちたいと思う欲望から、われらを救い出してください。

そして、もしあなたがわれらを、人間の思いからすれば、実に厳しい貧困へと招かれることがあるならば、そこであらがおうとしたり恨んだりする霊からわれらを救い出し、ひとから与えられる物を寛容に、謙遜に、受け取ることができるようになってください。

そして何よりも、ひととき与えられる恵みのひとつひとつに、霊的な恵みが重ね合わされ、肉体においても魂においても、われらがあなたの栄光のために生きられますように。

平野克己 「祈りのともしび」より

ジャン・カルヴァンの祈り

今日のお知らせ

○今日はペンテコステ礼拝です。聖霊がこの地上に來てくださり、教会を誕生させてくださったことを記念して礼拝を献げます。

○礼拝の中で、菊池美穂子教師の別牧師就任式を行います。

○正午からホールで、ペンテコステを祝う会をします。

○引き続き愛餐会で昼食を共にします。

今日のメニューは、

ハンバーグ・デミグラスソース添え

季節のビーンズサラダ

野菜スープ

フルーツ盛り合わせです。御期待ください。

○愛餐会後、五月の定例の役員会をカナルームで行います。役員はお集まりください。

○明日二二日(月)午前一〇時半から、東京説教塾の例会がホールで行われます。

○薬園香音楽伝道師は、二三日(水)一九時から、東京文化会館でデビュー三五周年記念リサイタルを行います。また二五日(金)は、青山学院大学青山キャンパスで講演の奉仕をします。

四国だより

三月の教会報告では、今年のクリスマスに受洗を望まされておられる、名の方々喜んで礼拝 出席しておられる事です。

お二人ともに純心で正直な心で主にお従いしておられます。ふと思ひますのは、聖書の中に登場している出血の止まらない女性が全財産を使い果たし、絶望の淵で知らされた、イエス様の真実。イエス様の服の房に触れようとして前に進み出たあの女性の姿のようなお二人です。

イエス様が「わたしに触れたのは誰か？わたしから方が出てゆくのを感じた」そんな特別な幸いを得た人たちと想います。

一人の姉妹は初めての礼拝出席の日に讚美が始まって間もなく、そして礼拝が終わるまでハンカチを離さず、涙を拭っておられました。主の深い憐れみの御目に鋭くとめていた人たちと確信しております。

後になっての笑い話となりましたが、涙と鼻を拭く音に「今日はひどい花粉症の人が出席している」ととても気の毒に思った私達でありました。教会の奉仕にも喜んで参加され

私達はその真実な姿にいろいろと学ばされておられ、感謝しております。

吉村先生、教会員の皆さまの尊いとりなしのお祈りに感謝し、勇気を常にいただいております。石難うございます。主の御栄光を賛えつつ。

二〇一八年五月七日 田端良恵

聖書の会へどうぞ 5月23日(水)

●朝の聖書の会(10時)
神を動かす祈り

マタイ15章21〜28節

吉村和雄牧師

●聖書の夕べ(19時)

「扇動して」

使徒13章40〜52節

黄允湜副牧師

ミニコンサート

6月14日(木) 12時30分

ハンドベル教室

次週礼拝

●第1礼拝(午前9時30分)

讚美歌 22番 ガリラヤの風

説教 「霊が鳩のように」

聖書 マルコ1章9〜11節

説教者 菊池美穂子 副牧師

●第2礼拝(午前11時10分)

讚美歌 499番 365番

詩篇 第144編

説教 「信仰による従順へ」

聖書 ローマ1章1〜7節

説教者 吉村和雄牧師





ペンテコステ礼拝

(午前10時)

讃美歌 180番

66番

説教 「聖霊の風が吹く」

聖書 使徒言行録2章1～13節(新約P214)

司式・聖餐司式 黄允湜 副牧師

説教者 吉村和雄 牧師

前奏曲「来たれ創り主なる聖霊」L.S.M.S

○讃美歌 180番

1. はとのごと降る めぐみのみたまよ
こころをやわらげ なぐさめたまえや
 2. まことのひかりを われにてらして
ひかりのなかをば あゆませたまえや
 3. ちちなるみかみの みまえをはなれず
つつしみうやまい いのらせたまえや
 4. いのちのみちなる 主イエスにしたがい
みあとをふみつつ すすませたまえや
 5. われらをきよめて さかえのみくにの
つきせぬめぐみを うけさせたまえや
- アーメン

○教会学校生徒による讃美

「すばらしいこの日」

○ソプラノ独唱

モーツァルト「モテット」より

○聖歌隊による讃美

「主よくだりたまえ」S.G. 藤本敬三訳

来たりたまえ この日

くだりたまえ 聖霊よ

御名により集い 主とほめたたえ

我が主のいのちは我らに満ちる

与えられし全て 信じ日ごとに祝福を祈る

そして我ら願う

来たりたまえ この日

くだりたまえ 聖霊よ

主の家族としてひとつの心

あなたの救いを喜び受ける

祝福をたまえ幼子たちに

若きもの老いたるもの全てに

来たりたまえ この日

くだりたまえ 聖霊よ

主よ 来たりたまえ この日

くだりたまえ 聖霊 我らに

主よ 我らに

○讃美歌 66番

1. 聖なる 聖なる 聖なるかな
三つにいまして 一つなる
神の御名をば あさまだき
おきいでてこそ ほめまつれ
 2. 聖なる 聖なる 聖なるかな
神のみまえに 聖徒らも
かむりをすてて ふしおがみ
みつかいたちも み名をほむ
 3. 聖なる 聖なる 聖なるかな
罪ある目には 見えねども
みいつくしみの 満ちたれる
神のさかえぞ たぐいなき
 4. 聖なる 聖なる 聖なるかな
み手のわざなる ものみなほ
三つにいまして 一つなる
神の大御名 ほめ奉らん
- アーメン

聖餐曲「我ら聖霊を願わん」D.ブクスターゲ

後奏曲「来たれ聖霊、主なる神」J.S.B.カ



※礼拝には、聖書、讃美歌、礼拝のしおりを加えお持ち下さい。